

リハビリへのモチベーション向上に向けて
～潰瘍へのシャワー洗浄を試みて～

5 階病棟

〈 はじめに 〉

今回私たちは、腰椎硬膜外膿瘍が誘因となり運動麻痺となった患者が糖尿病性壊疽にて潰瘍形成した症例を経験した。長期に渡り、糖尿病の治療を中断しており切断も治療の選択肢に含まれる程の潰瘍であったが、入浴による洗浄と処置を継続することで潰瘍の上皮化が認められた。上皮化したことで、リハビリへのモチベーションの向上へと繋がったためここに報告する。

〈 事例紹介 〉

[患者] T・S 氏 71 歳 男性

[既往歴] 糖尿病、高血圧

[主 訴] 腰痛、両下肢麻痺

[現病歴]

当初は蜂窩織炎で他院へ入院加療していたが、性格的に易怒的な面があり血治療継続が困難のため自主退院する。その後、症状が増悪し歩行困難(両下肢麻痺)となるが、手術適応外のためリハビリ目的で当院へ入院となった。入院当初、いつかは歩きたいという思いはあったが、腰痛もありリハビリに対する意欲は乏しかった。また、持ち込みの糖尿病性潰瘍があった。検査データより低栄養状態だが、潰瘍の感染徴候はみられなかった。また、HbA1c が高値であることから、糖尿病コントロール不良、食事 1400kcal で開始される。

[入院時身体所見] 上肢左右挙上可 握力 MMT4～(5) 下肢左右 MMT0～1

[入院時検査所見] Alb : 2.6g/dl CRP : 0.32mg/dl HbA1c : 7.1%

[食事量] 1400kcal

[診 断] 胸椎硬膜外膿瘍 運動麻痺(Th12～L2 レベル)

〈 看護の実際 〉

[入院 ～ 2 週目]

ベッド上安静指示があり、硬性コルセットを装着してギヤジアップ 20～30 度で食事をしている状況であった。腰痛の訴えも強く聞かれ、食事後もすぐにベッドをフラットに戻していた。

入院 2 日後よりリハビリで車椅子乗車開始するが、両下肢麻痺・知覚鈍麻があるため全介助で行い、乗車しても数分～10分程度であった。

また、左足背～外踝の潰瘍は創が全て皮下でつながっている状態で、切開すると骨が露出する可能性があった。潰瘍について医師より切断の可能性の説明を受けたが、切断は絶対したくない、いつかは歩きたいという希望をもっていたため私たちも悲観的な声掛けは避け毎日足を洗浄、ガーゼ軟膏塗布+ガーゼ保護を行った。S 氏は最初、処置中の痛みの訴えはなく表情も変えることもなく、潰瘍に対しても特に訴えはきかれなかった。

[入院 1 カ月目]

車椅子乗車時間が増えていき 20 分程度可能となる。S 氏より「食堂へ行きたい」と訴えがあり、リハビリ以外で初めて車椅子へ乗車すると、穏やかな表情をしていた。最初は昼食時のみ車椅子乗車していたが、徐々に離床時間が増えていった。

入浴許可がでたため、入浴時は必ず看護師が付き添いシャワーを使用しながら洗浄を行った。S 氏は入浴を楽しみにされ、笑顔もみられるようになった。入浴時以外は洗浄を継続していると、徐々に潰瘍の改善がみられ軟膏がスクロードパスタへ変更となる。「少しずつよくなりましたね」と改善していることを伝えると、嬉しそうな表情や笑顔が増えていった。処置を行うたびに S 氏のほうから「傷はどうだ」と聞くようになっていった。

[入院 2 カ月目]

S 氏から「もう少し座ってようかな」と聞かれるようになり、離床する時間が増えていった。腰痛の訴えは時々あったが、車椅子移乗時スタッフ 1 人介助で移乗可能となった。

毎日シャワー洗浄、処置をを繰り返すことで不良肉芽はほとんどみられなくなった。9 月中旬には潰瘍部は上皮化し治癒となった。「傷が治りましたね」と伝えると笑顔が見られ「本当によかった。足を切らなくてよかった」と話される。

〈 考 察 〉

今回、疾患により急速に下半身麻痺・知覚鈍麻が出現した。元々、ADL が自立していたことから自分の病気について中々受け入れられず、何事に関しても消極的であったのではないかと考える。また、性格的に易怒的な面があること、認知症があることから他者からのアドバイスを聞き入れることが難しく、糖尿病のコントロール不良につながったと考えられる。

入院当初は「歩けるようになりたい」という想いと「病気に対する悲観的」な想いと葛藤がありリハビリに対して消極的、潰瘍に対して関心が薄かった。

S氏はDrより切断の可能性を説明された際、「切断したくない」という想いが強く私たちスタッフもS氏の思いを汲み取り毎日、シャワー洗浄や処置を行った。「褥瘡治癒のためには、皮膚の正常な角化によって健全な皮膚が形成されなくてはなりません。創周囲皮膚を洗浄すると角化細胞による上皮化が促されるため、褥瘡周囲皮膚の洗浄が大事になってきます」¹⁾と中川は言っている。そのため、毎日継続して潰瘍部の洗浄、処置を行ったことが潰瘍の治癒につながったと考えられる。Herzberg は「人間は成長への欲求を刺激され、達成感を味わい、幕表への満足度が上がることがモチベーションに結び付く」²⁾と言っている。潰瘍が改善していく過程でその都度「よくなっている」ことをS氏へ伝える事でS氏の自信へとつながっていったのではないかと感じた。

リハビリを毎日継続して行ったこと、腰痛が軽減してきたこと、潰瘍が治癒したことが、成功体験を繰り返すこととなり、離床時間の拡大、S氏のモチベーション向上へつながったと考えられる。

〈 結 論 〉

1. シャワー洗浄、足浴を行う事は、手術の機会を逃して保存的に治療している潰瘍の改善に効果的である。
2. 潰瘍が治癒することは、モチベーションの向上につながる。
3. 今回の成功体験をS氏と共有することで、長期目標であるADLの自立獲得を目指していく。

引用・参考文献

- 1) 中川ひろみ:褥瘡スキンケア 褥瘡治療・ケアトータルガイド、照林社、171 2009
- 2) Harvard Business Review Anthology:Motivational Leadership.Diamond ハーバードビジネスレビュー編集部編訳:動機づける力-モチベーションの理論と実践-.ダイヤモンド社 14-15 2009

リハビリへのモチベーション 向上に向けて

～潰瘍へのシャワー洗浄を試みて～

5階病棟

菰原 福島 山崎

はじめに

- 今回私たちは、胸椎硬膜外膿瘍が誘因となり運動麻痺となった患者が糖尿病壊疽にて潰瘍形成した症例を経験した。
- 長期に渡り、糖尿病の治療を中断しており切断も治療の選択肢に含まれるほどの潰瘍であったが、入浴による洗浄と処置を継続することで改善が認められた。
- 潰瘍が改善したことで、リハビリへのモチベーション向上につながったため、ここに報告する。

事例紹介①

- [患者]: T・S氏 71歳 男性
- [既往歴]: 糖尿病、高血圧
- [主訴]: 腰痛、両下肢麻痺

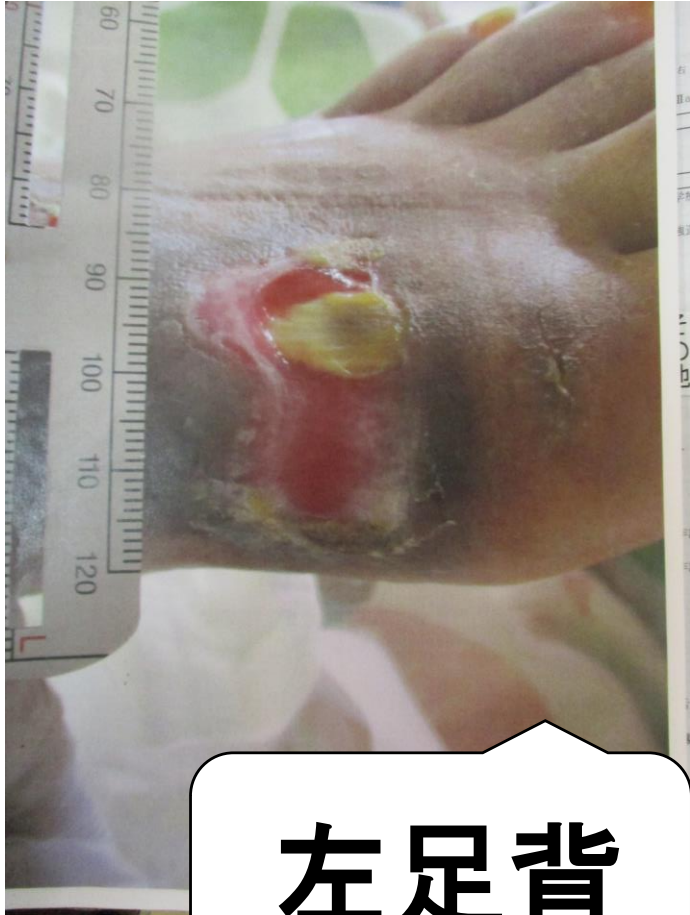
事例紹介②

- [現病歴]
- 他院に蜂窩織炎で入院加療していたが、性格的に易怒的な面があり、治療継続が困難のため自主退院した。
- その後、症状悪化し両下肢麻痺にて歩行困難となるが、手術適応外のため、リハビリ目的で当院へ入院となる。
- 入院当初、いつかは歩きたいという思いはあったが、腰痛もありリハビリに対する意欲は乏しかった。

事例紹介③

- [入院時身体所見]: 上肢左右挙上可、握力MMT4~5、
下肢左右MMT0~1
- [入院時検査所見]: Alb2.6、CRP0.32、HbA1c7.1
- [食事量]: 1400kcal
- [診断名]: 胸椎硬膜外膿瘍 運動麻痺(Th12~L2レベル)
糖尿病性潰瘍(左足背・左外踝)

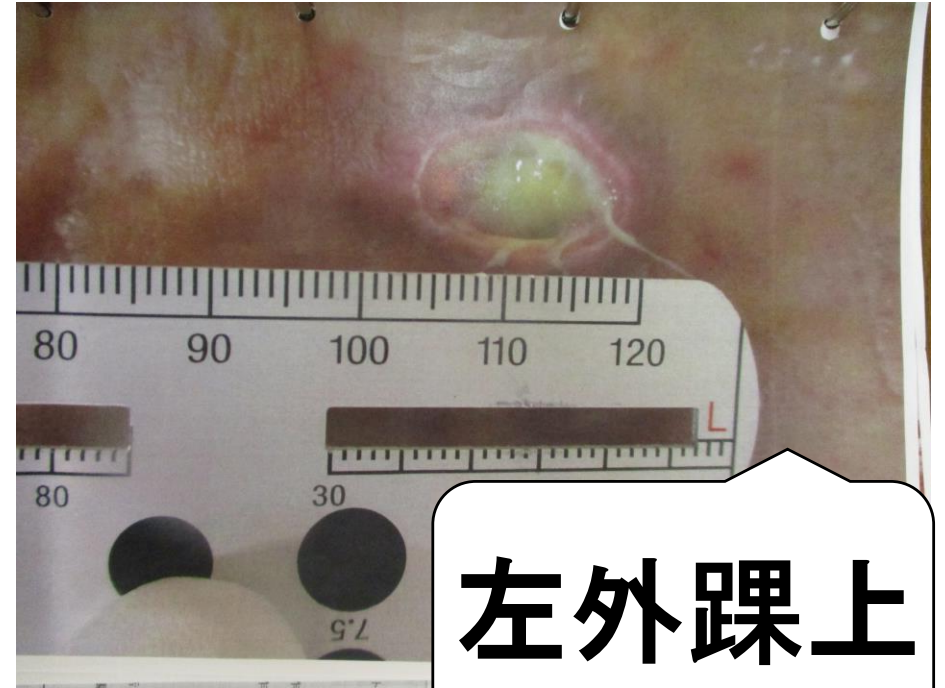
入院時の潰瘍



左足背



左外踝



左外踝上

入院

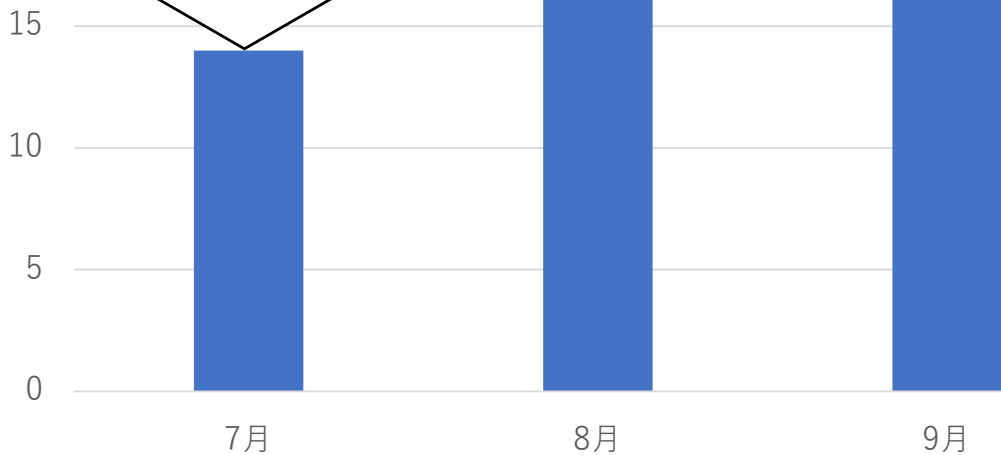
- ①車椅子移動
- ②食事
- ③左足

- ①車椅子移動による離床時間
- ②食事は自力
- ③シャワー

⇒洗淨+ゲーベン

- ①食事以外での離床時間の増大
- ②1人での離床
- ③潰瘍

- ①日中の離床時間拡大
- ②ベッド上での自力体位変換



左外踝



考察①

- 下肢の切断の可能性を説明される
- 「分からない」と困惑を見せていた
- しかし、「切断したくない」との思いが強かった
- **想いを汲み取り、毎日シャワー浴・洗浄＋処置を実施**
- ⇒ 潰瘍の治癒に繋がったと考える

考察②

- 潰瘍が治癒した
 - 腰痛が改善してきた
 - リハビリを毎日継続して行った
 - 治癒の過程で成功体験を得ることができた
- ⇒ 離床時間の拡大と、モチベーションの向上に繋がった

結論

1. シャワー洗淨・足浴を行う事は、手術の機会を逃して保存的に治療している潰瘍の改善に効果的である。
2. 潰瘍が治癒する事は、モチベーションの向上に繋がる。
3. 今回の成功体験をS氏と共有することで、長期目標であるADLの自立獲得を目指していく。

引用・参考文献

- 中川ひろみ：褥瘡スキンケア 褥瘡治療・ケアトータルガイド
照林社、107 2009
- Harvard Business Review Anthology :Motivational
Leadership.Diamond ハーバードビジネスレビュー編集部編
訳：動機付ける力・モチベーションの理論と実践：ダイヤモンド社 14・15 2009